

## 日本のモノづくり

2カ月間にわたる「マイウェイ」に、予想以上に多くの皆さまから激励やご意見、ご感想をいただいた。皆さまからの共感や反論の声は私にとって本当に良い勉強となった。最終回は将来の日本のあるべき姿を考えたい。

少子高齢化により、高齢者の年金のために若者の負担が大きくなるという話題で持ちきりだが、年金とは本来、個人と企業が納めた社会保険料を返してもらうだけの制度。年金制度が発足してしばらくは支払いがなかったため、湯水のごとく蓄積された資金を不要な建物や施設の建設に散財したこと。さらに金利の低下や資産運用に失敗したこと、運営が悪化した。歴代の社会保険庁長官の責任を一切問わないことは、

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 51



未来を担う若手社員たちと

## 次世代の若者たちに期待する

日本国民の温かな性格のためだろうか。昨年の出生は団塊の世代と比べ4割

を下回った。私はこのことで製造業離れがますます広がることを懸念してい

る。ご存知のように日本は長年財政赤字に苦しんできたが、その上貿易赤字になれば、世界からの信用・信頼は地に落ちる。最貧国になることもあり得る。現在、自動車や工作機械、特殊材料は言うに及ばず、ジャパンブランドの食料品など幅広い商品を輸出している。日本の強みとは何だろうか。金融や軍事力ではない。資源がなく、食料や燃料はほとんど輸入品。世界が日本を評価するのは「モノづくり」と「民

度の高さ」である。も過言ではない。双子の赤字が続けば経済は冷え込み、世界から信用を失い、将来の若者が就職することすら困難になる。昔ながらの町工場のような3Kと呼ばれる製造業は淘汰（とうた）され、魅力的な職場へと様変わりしている。外貨収入を減らさないためにも、日本人が得意とするモノづくりを発展させる時代。3年ビザで就労する漢字が理解できない外国人では経験や技術を蓄積できない。それでは近隣工業国の後塵を拝することとなる。私は50年余り製造業に身を置いてきたが、次の世代を担う優秀な若者のモノづくりでの活躍を切に期待し、筆を置くことにする。

(おわり)

日本のお家芸である製造業の若者離れは、国家の滅亡につながると言っ

7月2日からは豊田小原和紙工芸作家の山内一生氏です。